

平成28年度

教育事務に関する 点検及び評価報告書

《平成27年度事業分》

平成28年11月

七戸町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	七戸町教育施策の方針	3
III	平成27年度事業分 教育委員会の活動状況について	11
IV	平成27年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見	12
V	平成27年度事業分 施策別主要事業一覧	13
	事業評価シート	14

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の対象

(1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

(2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

(3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員2人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

2 点検・評価作業の経緯

平成28年6月28日	点検・評価に係る資料作成依頼
8月23日	第1回教育評価審議会
9月20日	第2回教育評価審議会
11月4日	第3回教育評価審議会
11月21日	定例教育委員会へ報告
11月21日	文教厚生常任委員会へ報告
12月2日	第4回町議会定例会へ報告

3 評価報告書の公表

評価報告書は、七戸町ホームページに掲載し公表する。

4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

松林 和子（七戸神明宮宮司）

石田 隆平（自営業）

5 前年度（平成26年度事業分）の点検・評価における教育評価審議会委員からの意見に対する説明

教育評価審議会委員からの意見（要約）	各課からの回答
<p>(1) 学校給食費給付金事業については、昨年度も意見として取り上げており、また、まだ事業の見直しの時期ではないと考えられるが、教育委員会としてできる子育て支援は他にもあると思われるので、検討していただきたい。</p>	<p>昨年度と同様の回答となるが、3年又は5年をめぐりに、例えば、学校及び保護者からアンケートを取るなどして、検証していきたい。 (学務課)</p>
<p>(2) 町立美術館について、整備当時は地域内では初の本格的な美術館であり、注目度も高く来館者も多かったが、近年は、近隣に大型で特色のある美術館が設立されたこともあり、苦しい状況も致し方ない部分もあると理解できる。 しかし、新幹線駅のそば、国道4号線沿いという立地条件は他に比べて依然として有利であり、アイデア次第では十分巻き返せると思うので、指定管理業者に一任するのではなく、教育委員会として方向性を示す等、積極的に運営に関わってほしい。</p>	<p>美術館をより地域に開かれたものとするため、美術館で実施している「地域における芸術文化振興拠点事業」について、教育委員会事業（平成26年度は放課後子ども教室、平成27年度は土曜学習）も活用するなど、町と美術館が一体となって事業展開をしていきたい。 (生涯学習課)</p>
<p>(3) 外国語教育について、外国語指導助手（ALT）派遣事業を実施しているが、国では小学校の英語教科化を導入予定であることから、今後ますます英語の重要性が高まってくると思われるので、さらに充実していただきたい。</p>	<p>外国語指導助手（ALT）派遣事業については、継続することとしているが、今後は、教職員の外国語指導力向上に向けて、国・県が実施する研修に積極的に参加等を検討していきたい。 (学務課)</p>
<p>(4) 事業全般について、担当者自ら廃止や見直しの方向性を判断していることは、素晴らしい取り組みであり、今後も継続し、どんどん意見を述べてほしい。</p>	<p>担当者自ら「事業評価シート」を作成しているため、事業の廃止・見直し等の気付きにつながっているとわれ、今後も継続していきたい。 (学務課)</p>

Ⅱ 七戸町教育施策の方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く町民の育成を目指し、

- 1 学び・自立・共生の力をはぐくむ学校教育
- 2 自己の啓発・向上と社会参加を実現する社会教育
- 3 芸術・文化の伝承・創造と文化財の保存・活用
- 4 健康増進と体力向上を促進する生涯スポーツ

を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

学校教育の方針と重点

1 方針

青森県教育委員会の「学校教育指導の方針・重点」、上北の教育「学校教育指導の方針と重点」、中部上北教育委員会「学校教育指導の方針と重点」との関連を図り、教育は人づくりという視点に立って、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指し、学校運営に創意工夫をこらし、個を生かし生きる力と夢を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 確かな学力の育成

一人一人の子供が、各教科や総合的な学習の時間等において主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、児童生徒理解に基づいた学年・学級経営の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 教材研究の深化と魅力的な授業づくりの推進

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得
- ・言語活動の充実を図り、学習意欲を高める授業の実践
- ・習熟の程度の把握・教材研究の深化に基づく「わかる授業」の実践

イ 指導と評価の一体化

- ・自己解決の場の設定と適切な授業形態の工夫
- ・評価の見直しと評価に応じた具体的な指導の充実
- ・必要に応じた補充的学習や発展的学習の導入

ウ 学習環境づくりと学習習慣の確立

- ・一人一人を生かすための学習環境の整備
- ・読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の有効活用
- ・縦の連携、横の連携を生かした学習習慣の確立

(2) 豊かな心の育成

一人一人の子供が、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし得るよう、道徳性の育成に努める。

ア 教育活動全体を通じての道徳教育の充実

- ・子供の道徳性の実態に即した資料選択と分析・指導方法の工夫
- ・道徳の時間と教科・領域・総合的な学習の時間、「私たちの道徳」との関連を明確化した指導計画の作成と授業実践

イ 道徳性の育成や社会性の育成を目指した体験活動

- ・道徳の時間との関連性を明確にした体験活動の推進
- ・郷土の伝統・文化に親しみ、愛着をもたせるための資料の開発・活用と地域社会との連携・協力

ウ 自己指導力を育む協同指導体制の充実

- ・全教職員の共通理解に基づいた実践項目の設定といじめ等への危機管理への協同指導体制の充実

- ・生徒指導の機能を生かした授業や学年・学級経営の充実
- ・個に寄り添った教育相談体制の充実

(3) 健やかな身体の育成

一人一人の子供が、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体としてとらえ、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。

- ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実
- イ 健康に関する知識を身に付け、自ら健康な生活を実践できる指導の充実
- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
- エ 身の回りの生活の安全、防災等、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動を実践できる力の育成

(4) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障がいのある子供が、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

- ア 校内支援体制の整備・充実
 - ・校内及び校種間における引き継ぎ体制の整備と組織的・継続的支援
 - ・全教職員の専門性の向上
- イ 指導の充実
 - ・個に応じた適切な教育課程の編成と指導と評価の充実
 - ・個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
 - ・ねらいを明確にした交流及び共同学習の実施
- ウ 特別支援学校や家庭、関係機関との緊密な連携
 - ・将来の自立や社会参加のための支援体制づくりと適切な援助
- エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(5) キャリア教育の推進

一人一人の子供が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

- ア 校内推進体制の整備・充実
- イ 将来の生き方指導・進路指導の充実
- ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(6) 環境教育の推進

一人一人の子供が、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

- ア 教科間の連携を踏まえた指導の工夫

- イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ウ 環境に関わる体験学習の推進

(7) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子供が、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

- ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- イ 外国語指導助手等の活用や言語活動の工夫・充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成
- ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

(8) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子供が、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・計画的・体系的な情報教育の推進に努める。

- ア 情報教育を推進する組織的・計画的・体系的な指導体制の整備・充実
- イ 学習指導におけるコンピュータ等の適切な活用の推進
- ウ 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進
- エ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の推進

(9) 研修の充実

教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、校内研修体制の整備・充実に努める。

- ア 全教職員による組織的・計画的な研修の整備・充実
- イ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実
- ウ 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進
- エ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実

(10) 幼稚園教育の充実

人格形成の基盤づくりと幼児の健やかな成長のために、幼児期の特性の把握と適当な環境を与え、心身の発達を助長することに努める。

- ア 発達の特性に応じた指導の充実
 - ・一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した指導
 - ・基本的な生活習慣や態度の育成
 - ・幼児の内面理解に立った環境構成の工夫
- イ 集団の持つ教育力を生かした豊かな心の育成
 - ・遊びなどの体験を通し、協同の態度及び道徳性の芽生えを培う指導の充実
 - ・表現活動の充実
 - ・善悪の判断力や思いやりの心を育むための家庭との連携

社会教育行政の方針と重点

1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、学びを生かしつながらをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 青少年の体験活動の充実
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子供の読書活動の充実
- エ 地域全体で子供を育む活動の充実
- オ 家庭教育支援の充実

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者の育成
- イ 地域活動の指導者、コーディネーターの養成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

- ア 関係機関との連携による多様な学習活動の支援
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りをもち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、芸術文化の伝承・創造や貴重な文化財の保存・活用の推進に努める。

2 重点

(1) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア 芸術文化に関する団体及びサークル等の育成

- ・自主的な活動についての町内外への情報の発信
- ・芸術文化団体及びサークル等の連携による発表会の機会の創設

イ 鷹山宇一記念美術館等との連携

- ・芸術文化団体及びサークル等への研修機会の提供
- ・応募作品等の展示

(2) 文化財の保護・活用の充実

町内に存在する有形・無形の文化財等の保存・活用とその環境の整備に努める。

ア 文化財の保存

- ・歴史上や学術上価値の高い有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財等の調査研究活動や記録の作成等による保存
- ・文化財の保護思想の普及・啓発

イ 文化財の管理・活用

- ・史跡や名勝、天然記念物の保存のための環境保全
- ・保管している文化財の公開展示と公開講座等の開催
- ・「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取り組みの推進

(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

ア 伝統芸能・工芸技術等の保存

- ・歴史的価値の高い伝統芸能・工芸技術等の町指定
- ・記録の作成等による保存と情報の発信

イ 伝統芸能・工芸技術等の継承

- ・伝承活動及び後継者の育成に対する支援
- ・伝統芸能・工芸技術等の発表機会の奨励・支援

(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実

- ア 文化交流センター内にある資料の保管充実と教育普及に努める

社会体育の方針と重点

1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

2 重点

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

ア スポーツに親しむ環境づくり

- ・スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供
- ・健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

イ 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・誰でも親しめる総合型地域スポーツクラブ設置の取組

(2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

ア 競技力を高める環境づくり

- ・町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・スポーツ科学を導入した指導者の養成と研修機会の提供

イ 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・競技選手の強化練習の充実
- ・指導技術に長けた指導者の活用

(3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

ア 指導者の確保

- ・要請に応じて地域やスポーツ団体へ派遣できる指導者の人材バンクへの登録・活用
- ・体育指導委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

イ スポーツ振興の充実

- ・体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取り組み
- ・構成する各種団体からの指導者の相互派遣

ウ 社会体育施設等の有効活用の促進

- ・スポーツ担当職員の研修の充実と実地指導による支援
- ・スポーツ活動に関する情報の収集・発信

公民館の方針と重点

1 方針

地域住民の学習活動の拠点としての機能の充実を図るとともに、社会教育団体や学習サークル等の活動する場の提供と支援に努める。

2 重点

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア 多様な学習プログラムの開発と学習資料の整備
- イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催
- ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

- ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋
- イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供
- ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供

図書館の方針と重点

1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

2 重点

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

- ア 利用者の学習ニーズに対応した図書の整備と情報提供

(2) 読書活動の推進

- ア 子供読書活動の支援と推進
- イ ブックスタート事業の推進
- ウ ボランティア活動の育成と支援

Ⅲ 平成27年度事業分 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、5人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等について、管理、執行することとされている。

1 教育委員の構成

平成28年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
委 員 長	附 田 道 大	平成24年5月17日～平成28年5月16日
委員長職務代行者	内 山 優	平成27年5月17日～平成31年5月16日
委 員	山 本 貴 子	平成26年5月17日～平成30年5月16日
委 員	福 田 雅 行	平成25年5月17日～平成29年5月16日
教 育 長	神 龍 子	平成25年5月17日～平成29年5月16日

2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

(1) 教育委員会会議（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件			
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議	選 挙
12	2	32	39	3	1

3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育関連施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

(1) 主な活動

学校訪問（幼稚園、小学校4校、中学校3校）	上十三教育委員会連合会研修会
青森県教育委員会連合会研修会	東北六県教育委員会連合会研修会
幼稚園、各小・中学校の入学式や卒業式等の学校行事	成人式
教育奨励賞授与式	教育福祉援助基金授与式
奨学生選考委員会	

IV 平成27年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取組は、平成21年度の平成20年度事業評価からスタートし、今回が8回目の事業評価となるが、回を重ねるごとに、その内容や様式を改善しながら充実を図ってきた。

平成27年度事業もこれまで同様に個々の事業の気付いた点を評価することとした。

- 1 学校給食費給付金事業については、昨年度も意見として取り上げているが、予算規模が大きいため、保護者の一部負担等、引き続き検討してほしい。
- 2 学校教育について、勉強すれば高い点数を取れるという「達成感」「充実感」を子供たちに味あわせるため、英語検定、漢字検定、数学検定等を活用し、学力向上の一助にしてほしい。
- 3 町立美術館について、インパクトのある事業を実施し、町立美術館の存在を大きくアピールできるような事業を実施してほしい。
一方で、美術館の本来の役割である、芸術を広める事業については、まだまだ弱い部分があると思われ、所蔵している作品をもっと広く町民へ見ていただくような事業を展開してほしい。
- 4 文化交流センターについて、非常に貴重な歴史資料が展示されているが、多くの町民にその存在が知られていない状況と思われるため、もっとアピールしてほしい。
- 5 スポーツ振興について、町民が気軽に参加できるスポーツ大会がないが、例えば、新幹線駅を起点としたマラソン大会や、自転車を絡めた大会など、町外からの参加者も見込めるようなスポーツ大会を検討してほしい。

平成28年11月 4日

七戸町教育評価審議会委員

松林 和子（七戸神明宮宮司）

石田 隆平（自営業）

V 平成27年度事業分 施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し	その他		
1	学校教育の方針と重点	(1) 確かな学力の育成	1 (1) ① 町費負担臨時教員配置事業	●	●								
			② 臨時講師配置事業	●									
		(2) 豊かな心の育成	(2) ① 教育奨励賞									●	
			② 教育福祉援助基金給付事業		●								
			③ 奨学資金貸付事業		●								
			④ 学校おもいやり事業		●								
	(3) 健やかな身体の育成	(3) ① 学校検診事業		●									
		② 七戸町学校保健会補助事業		●									
		③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業		●									
	(4) 特別支援教育の充実	(4) ④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業		●									
		⑤ 学校給食費給付金交付事業		●									
		(4) ① 特別支援教育支援員配置事業		●	●								
	(5) 国際化に対応する教育の推進	(4) ② 学校生活相談員配置事業		●	●								
			③ 就学指導委員会		●								
			(5) ① 外国語指導助手(A L T)派遣事業		●	●							
		(6) 研修の充実	(6) ① 七戸町教育振興会補助事業		●								
			② ふるさと研修事業		●	●							
					●	●							
2	社会教育の 点の方針と重	(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	2 (1) ① 家庭教育支援総合推進事業	●									
			② 放課後子ども教室推進事業	●									
			③ 学習支援事業(夏休みわくわく学習ひろば)	●									
			④ ふるさと学びあい推進事業					●					
			⑤ 異文化交流事業		●								
(2) 次代を担う青少年の育成	(2) ① 成人式開催事業		●										
(3) 地域を支える人材の育成	(3) ① 町民大学講座開設事業		●										
(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	(4) ① 七戸町子ども会育成連絡協議会補助事業		●										
		② 青少年育成七戸町民会議		●									
3	文化財保護と芸術文 化の方針と重点	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ① 町立美術館の指定管理委託事業	●									
			② 文化芸術鑑賞事業	●									
			③ オータムフェスタ(文化部門)開催事業	●									
		(2) 文化財の保護・保存・活用	(2) ① 世界文化遺産登録に向けた取組事業			●							
			② ニッ森貝塚史跡公園管理業務委託事業			●							
	③ 史跡土地買い上げ事業		●										
(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	(3) ① 七戸町郷土芸能保存会支援事業		●										
(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実	(4) ① 文化交流センターの活用の充実									●			
4	社会体育の方針と重点	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	4 (1) ① 七戸町ジュニアスキースクール	●									
			② 町民スポーツ交流会	●									
			③ 体育協会加盟各部によるスポーツ大会	●									
		(2) 競技者の育成を図る環境づくり	(2) ① 町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球・ソフトボール大会					●					
			② 青森県民駅伝競走大会		●								
			③ 体育協会補助事業		●								
			④ スポーツ少年団支援補助事業		●					●			
		(3) スポーツ振興の体制整備	(2) ⑤ 子どもスポーツ振興事業		●								
			⑥ 体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)		●							●	
			⑦ スポーツ大会等選手派遣補助事業(県大会・東北大会・全国大会)		●							●	
	(3) ① スポーツ推進委員の研修		●										
	② スポーツ顕彰		●										
	③ 各種大会開催や合宿等の誘致		●										
5	公民館の方針と重点	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	5 (1) ① 公民館運営審議員設置事業	●									
			② 中央公民館(施設)事業	●									
			③ 中央公民館分館事業		●								
			④ 中央公民館講座開設事業	●									
			⑤ 寿大学開設事業	●	●								
			⑥ 柏葉大学開設事業	●									
			⑦ 七戸南公民館講座開設事業	●	●								
			⑧ 七戸南公民館分館事業	●	●								
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	(2) ① 文化協会の育成支援事業		●										
	② 七戸町連合婦人会育成事業		●										
	③ 中央公民館だより発行事業		●	●									
6	図書館の方針と重点	(1) 図書資料ので整備充実と利用の促進	6 (1) ① 中央公民館図書室事業	●									
			② 図書館サービス事業	●	●								
			③ 図書館協議会の運営	●									
		(2) 読書活動の推進	(2) ① 子どもの読書活動推進事業(中央公民館)		●								
			② ボランティア活動の育成支援事業		●								
			③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)		●								
	④ 生涯学習の推進・支援事業		●										

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	盛田一成
事業名	七戸町教育奨励賞				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	400	296	178	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	400	296	178		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	園児・児童生徒等で、教育文化活動・スポーツ活動において優秀な成績を収めた団体及び個人を表彰することで、能力開発や健全育成を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	表彰基準に該当する者で学校長及びスポーツ少年団本部長から推薦があった者の中から教育委員会が審査し、各賞を決定する。表彰式は年1回実施。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	特別優秀賞	該当者なし	該当者なし	個人の部2名
	最優秀賞	個人の部2名	個人の部6名	個人の部3名
	優秀賞	団体の部2団体、個人の部27名	団体の部4団体、個人の部23名	団体の部3団体、個人の部14名
優良賞	団体の部11団体、個人の部82名	団体の部8団体、個人の部43名	団体の部2団体、個人の部29名	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)、(エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	平成27年度は、これまでの規則を見直し、県大会以上の大会を表彰基準とすることや、曖昧であった高校生の文化活動に対しても表彰することなどを盛り込んだ七戸町教育奨励賞表彰要綱を新たに整備した。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少子化が進む中、表彰基準を上げることで、表彰の形骸化を回避し、児童生徒等にとって文化活動、スポーツ活動の競技力の向上や励みになるよう選考基準等をさらに検討する余地はある。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	17,840,000	18,400,000	16,160,000	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	17,840,000	18,400,000	16,160,000
		町 債			
一般財源					

事業概要	□ 目的	□ 内容
	七戸町に住所を有する者の子弟で、優れた学生及び生徒であって経済的理由により就学に困難なものに対して資金を貸し付けして人材育成を図る。	貸付を受けることができる者は、学校教育法第53条に規定する学部、学科及び課程に在学する者、又は法第82条の3に規定する専修学校の専門課程に在学し、父母又は後見人等が七戸町に1年以上住所を有する者、外国の大学に在学する者。 貸付額は、大学に在学する者は4万円以内、外国の大学に在学する者は5万円以内、大学又は専門学校に進学する者は入学一時金として50万円を限度に貸し付けする。

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	貸付額(円)	17,840,000	18,400,000	16,160,000
	貸し付け者実人数	29	34	31
	新規採用者	17	10	6
滞納額(円)	1,473,000	1,874,000	2,285,000	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	大学や短大への就学機会推進のため、事業の必要性は高い。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	貸付希望者に対して、広報等を利用して周知しているが、もっと詳しい情報の提供が必要である。 滞納者については、本人、保証人へ連絡をとり、滞納整理を進めていく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(2)④	担当課	学務課	担当者	盛田 一成
事業名	七戸町学校おもいやり事業費補助金事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	決算額(千円)		—	1,200
財源内訳	国・県支出金	—		
	その他	—		
	町債	—		
	一般財源	—	1,200	1,000

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	児童生徒の「生きる力」をはぐくむため、教育活動・学校行事(文化芸術事業・体育事業等)などの学校教育課程に位置づけられる教育活動を推進し特色ある学校づくりを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各小中学校が、通常の授業では得ることのできない教育活動を企画し、予算の範囲内において、学力向上を掲げる教科の教材費や専門的な知識・技術を有する外部講師に対する謝礼金等各学校において柔軟な事業実施した。

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
対象小学校件数		—	4校	4校
小学校補助金額		—	690,000円	560,000円
対象中学校件数		—	3校	3校
中学校補助金額		—	510,000円	440,000円

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (イ)、(オ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B	
評価の説明	学校行事等を自由に計画できることから、各校からは、好評を得ている事業である。平成27年度からは、学校の規模(児童生徒数等)により補助金の配分を決定した。各校で実施された事業が「特色あるもの」につながるかどうかはまだ判断するには難しい。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()	本事業は、平成26年度からの事業で、現時点で本事業の目的を達成できているかどうか判断するのは難しい。各学校からの事業継続の要望は大きいですが、各学校の特色を出すための手段が補助金形式がよいのかどうかも含め今後の検討を重ねていく必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	佐々木 沙也香
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	200	200	200	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	200	200	200		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	七戸町内の幼稚園・保育園・小学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	全国学校保健主事・学校保健研究大会研修	秋田市 「青少年の健康危険行動と防止教育」	大分県「養護教諭の専門性を活かした『生きる力』を育む健康教育の進め方」	愛媛県「子供たちの意志決定能力を育てる～健康教育とライフスキル教育のコラボレーション」
	七戸町学校保健研究大会	七中「性に関する指導について」～総合的な学習の時間を通して～	七小「姿勢について考えよう！～2年間の実践を通して～」	天中「清掃時体育(マッスル)で体力づくり」
	保健主事研修会	ハープを知らう	7月:体の歪みチェックの仕方と矯正の方法	7月:花に触れ合うということ
//		1月:普通救命講習会	1月:普通救命講習会	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
評価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
	評価の説明	それぞれの研修等に積極的な参加をし、健康に関する取り組みを行っている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	児童生徒の心身の健康問題に適切に対処し、解決していくためには、家庭だけでなく、学校や地域との連携が必要になってくる。そのため、今後もこの事業を継続していかなければならない。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	盛田一成
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	5,606	6,304	5,950	
	財源内訳	国・県支出金	145	38	85
		その他			
		町 債			
	一般財源	5,461	6,266	5,865	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町就学援助費支給要綱に基づき、経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合は、世帯の経済状況を審査し認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒用品費、校外活動費及び修学旅行費。 なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	援助費支給額実績(円)	5,606,445	6,303,134	5,949,934
	準要保護支給対象者	153	141	136
	要保護支給対象者	4	9	2

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高い。 平成25年度から給食費補助事業が開始されたことにより、給食費は本事業の補助対象外となっている。	

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	経済的困窮世帯が増加している中、当該事業の必要性は高いことから、今後も事業を継続していくとともに、認定基準の明確化及び手続き効率化の検討も続ける。
--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)⑤	担当課	学務課	担当者	濱谷 舞
事業名	学校給食費給付金交付事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	53,991	54,827	52,902	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	53,991	54,827	52,902		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校の学校給食費用を保護者に支給し、経済的負担を軽減し、少子化対策及び子育て支援の充実に図るため。	<input type="checkbox"/> 内容	町内外の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者で、町内に住所を有する者を対象とし、学校給食費に相当する額を給付。国又は地方公共団体の負担において給食費の全部又は一部について給付等を受けた場合は、当該給付金の額から当該給付額に相当する額を控除した額とする。生活保護受給者、町外に住所のある区域外就学者の保護者は対象外。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	項目	年度 (単位:人)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	小学校		695 (町内4校、町外1校)	699 (町内4校、町外2校)	682 (町内4校、町外4校)
	中学校		440 (町内3校、町外4校)	406 (町内3校、町外4校)	412 (町内3校、町外5校)
	特別支援学校・学級		1	2	2

事業評価	評価項目				評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)				A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他				A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない				B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				B
評価の説明	町外の小・中学校在籍児童生徒の保護者へ周知を徹底し、申請漏れの無いようにした。保護者の経済的負担が軽減されるため必要性は高いと考えられる。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	保護者の経済的負担は軽減されているが、少子化対策への直接的な解決には至っていないと思われるため、今後の状況を見て、事業の目的について見直す必要がある。また、町外学校在籍者で準要保護申請した場合など様々なケースが出てくることが考えられるため、支給額の調整等の対応を考える必要がある。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	佐々木 沙也香
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	15,931	16,361	17,672	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	15,931	16,361	17,672	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小・中学校の通常学級に在籍する学習障害、注意欠陥多動性障害、情緒障害など、特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導、安全確保、生活指導等の支援を行うことを目的に、各小・中学校に特別支援教育支援員を配置する。	学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、 ①基本的な生活習慣確率のための日常生活上の介助 ②発達障害の児童生徒に対する学習支援 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④児童生徒の健康・安全関係 ⑤校外行事や運動会等、各行事における介助等の支援を行う。

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	配置校・支援員数	小学校 4校 ・ 8名 中学校 3校 ・ 5名	小学校 4校 ・ 9名 中学校 3校 ・ 5名 幼稚園 1名	小学校 4校 ・ 11名 中学校 2校 ・ 5名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	学校生活を送るうえで、特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるため、それぞれの障がいに応じた適切な教育をするために、重要な事業となっている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後さらに重要性が増していく考えられる。適切な支援をしていくためには、専門知識を身に付け、具体的な支援技術を習得していく必要がある。七戸町教育振興会等での研修会を利用して、支援員の資質向上に努めなければいけない。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	佐々木 沙也香
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	2,456	3,812	4,052	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	2,456	3,812	4,052		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	生徒の悩みや不安などを解消するとともに、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を教職員と協力しながら、不登校生徒や別室当校生徒、保護者への支援を行うことを目的とする。	学校長の指揮監督のもと、生徒の悩みや不安解消のため、個別にカウンセリングを実施したり、いじめや不登校生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ①生徒の話し相手・悩み相談 ②不登校生徒への支援 ③家庭・地域と学校の連携支援 ④その他学校の教育相談の支援 等

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	配置校・支援員数	七戸中学校 2名	七戸中学校 1名	七戸小学校 1名
		天間館中学校 2名	天間館中学校 2名	城南小学校 2名
	榎林中学校 1名	榎林中学校 1名	七戸中学校 1名	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	児童生徒の不登校やいじめ問題等は深刻な問題であることから、憂慮すべき状況にあると言える。そのことから本事業の必要性はさらに高まっている。児童生徒が気軽に、そして素直に話すことができるように第三者的存在として活動している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	児童生徒から徐々に受け入れられるようになってきていることに伴い、気兼ねな相談等があり、ストレス軽減にもつながっていると考えられる。今後も配置の必用があり、それぞれの学校の状況に応じて配置数の増減を考えなければいけない。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)③	担当課	学務課	担当者	濱谷 舞
事業名	就学指導委員会				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	-	-	-	
	財源内訳	国・県支出金	-	-	-
		その他	-	-	-
		町 債	-	-	-
	一般財源	-	-	-	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的		<input type="checkbox"/> 内容	
	保護者の希望により障害のある、又は、発達や行動の気になる児童生徒が適切な教育の場を決定できるよう専門知識のある者によって構成された就学指導委員会において一定の判定をする。		七戸町と東北町とで共同設置の中部上北就学指導委員会 (1)障害のある、又は、発達や行動が気になる就学予定児、児童及び生徒の適切な教育措置に係る総合診断 (2)就学に係る教育相談 (3)その他、中部上北広域事業組合教育委員会教育長が必要と認めた者	

7	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	対象児童生徒数	9	21	20
	入級判定者数	8	17	16
	実入級者数	7	11	15

事業評価	評 価 項 目			評 価	
	事 業 評 価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	早期からの対応として、保健師からの情報提供、幼稚園・保育園からの情報提供により関連課との連携を行っている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(保護者や子どもを取り巻く地域の人たちの発達障害についての理解、就学指導に関する理解啓発が必要である。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(6)①	担当課	学務課	担当者	上野 司
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	2,459	2,400	2,383	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	2,459	2,459	2,383		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	幼児児童生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 理科工作標本展、スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、教育講演会、研究活動等
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
	体育・学芸委員会	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成	各種体育大会・作品展参加助成
	職員研修	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等	ふるさと研修・先進地視察等
	教育講演会	発達障がいの子どもへの具体的指導の実践について	学校におけるメンタルヘルスの実践―実例検討より―	エビベン 講習会・食物アレルギーに関わる講話
先進校等研修(幼・保育園)実施	7校・7(園)	7校・7(園)	7校・7(園)	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	七戸町の教育の重点目標達成のために、研修委員会では、教職員の教育観の確立を図るとともに指導過程や指導技術の改善向上を目指す研究、研修に取り組んだ。また、各校(園)でそれぞれ先進校・研究会へ参加し、研修をすすめた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本町の保育園から高等学校まで、14の教育機関が縦、横の連携を充実させ、その活動を通して教育水準を高めていく組織であることから、今後も継続すべきと考える。事業内容にあった予算を見直す必要があると思われる。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(6)②	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	ふるさと研修事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	54	22	22	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	29		
		町 債			
	一般財源	25	22	22	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、七戸町教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等について理解を深めることを目的に開催した。	七戸町発展のあゆみや産業、文化について研修した。今年度は、史跡七戸城跡、ひげ塚公園、見町観音堂、鷹山宇一記念美術館、中野の庚申碑と大イチョウ、天間館一里塚、天間館神社(こうもり神社)、史跡二ツ森貝塚、蒼前一里塚を研修・見学した後に、食物アレルギー研修を実施した。

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	参加者: 教職員	25人	20人	26人
	教育委員会	4人	3人	1人
	合計	29人	23人	27人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		B
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	七戸町へ赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学できたことは、教育課題等の理解を深めるうえで大きな成果であった。また、各学校の枠を超えて一緒に研修、交流できたことも大きな成果であった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	研修場所が広範囲にわたるため、施設間等の移動に時間を要し、十分な研修、見学時間がとれなかった。今後は、本研修が児童生徒の学習活動に役立つよう、講師及び参加者から意見を聞き、内容を充実していきたい。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	2(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	二宮 渉
事業名	放課後子ども教室推進事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	決算額(千円)		2,039	1,902
財源内訳	国・県支出金	1,310	956	1,375
	その他			
	町債			
	一般財源	729	946	1,149

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	小学校児童を対象とし、放課後や週末・長期休暇等に小学校の余剰教室や児童館等を利用して、地域住民の参画を得て、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容
			・子どもたちの安全管理を図る者(安全管理員)を全小学校区に配置。 ・放課後対策事業の総合的な調整役を担う者(地域コーディネーター)を七戸・天間林各地区に配置。 ・子どもの放課後対策事業の運営方法等を検討する運営委員会の設置。

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
のべ開催日数		479日	443日	524日
のべ児童参加者数		25,122人	28,854人	31,659人
地域コーディネーターの配置		2人	2人	2人
安全管理員の配置		5人	4人	4人

事業評価	評価項目		評価
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (エ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価	評価の説明	教育委員会部局(生涯学習課)と福祉部局(社会生活課)と連携し、学習支援や遊びを通しての異学年交流や様々な体験活動等、子どもの放課後対策として効果的な事業である。また、地域の住民や指導者を活用することで地域との連携も図られている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	地域コーディネーター及び安全管理員の人件費について、町は総額の1/3を負担し、国と県が2/3を補助金として負担しているが、補助金額の縮小のため自主財源の割合が増加している。また、現在は子ども教室を児童館、学童保育クラブと連携して開催しているが、町では平成26年度より順次、児童福祉施設の建設及び民間への管理を委託しているため、子ども教室の開催場所、運営方法等について検討する。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	2(1)④	担当課	生涯学習課	担当者	二宮 渉
事業名	ふるさと学びあい推進事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	決算額(千円)			319
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源		319	700

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>将来の七戸町を担う子どもたちに、自分の生まれ育った「ふるさと」の自然、歴史、文化、産業、生活などについて学習し、理解を深めるための機会を与え、学校や家庭生活では体験できない様々な活動プログラムを提供し、子どもたちの視野を広げ、友情を深め、自立心を養うことを目的とする。</p>	<p>①郷土学習事業 七戸町の歴史について学ぶため、御所野縄文公園や是川遺跡等の見学を一泊二日で行った。 ②自然ふれあいキャンプ事業 七戸町の自然に触れるため、東八甲田家族旅行村で一泊二日のキャンプを行った。 ③キャリア教育事業 七戸町の産業について学ぶため、トマトの植付、加工、ビザの販売を行った。</p>

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
参加者数(郷土学習事業)			11	11
(キャンプ事業)			10	14
(キャリア教育事業)			4	38

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (ウ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	子どもたちが、学校生活で学んだことを活かし、さらに一步進んだ学習をすることができる場と、今まで気づくことのなかった七戸町の良さを知ることのできる機会を提供することができた。 自然ふれあいキャンプについては、かだれ田舎体験協議会や、東八甲田家族旅行村で小川原湖自然楽校がプログラムを提供しているため、町として行う必要性は低い。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	郷土学習事業とキャリア教育事業については、今後も継続していくが、キャンプ事業については民間の活動があるので廃止する。 子どもを対象に行っている他の事業や学校行事等との日程調整を密に行い、できるだけ多くの子どもが参加できるように配慮していく。 また、学習内容についても、各学校との連携をしながら、より魅力的なプログラムを提供できるよう検討する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	町立美術館の指定管理委託事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	19,963	23,508	22,875	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		19,963	23,508	22,875	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	美術館等の管理運営にあたって、自らの創意工夫を活かし、美術館等の入館者に対するサービスの向上及び管理経費の削減を図り、町民芸術文化の一層の増進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	①入館の許可に関する事 ②入館料の収受に関する事 ③設備及び備品等の維持管理に関する事 ④事業計画に基づいた各種事業の運営に関する事 ⑤町長のみ権限に属さないその他の管理運営に関する事務
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	入館者数	8,573人	12,370人	9701人

事業評価	評価項目			
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	B
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B (イ)
		(Bの場合) (ア)国・県が行うべき	(イ)民間で実施可能 (ウ)その他	
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
評価	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
		(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
評価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	B
		優先性が高い	低い	
評価	説明	文化村の中核施設として建設された美術館は、芸術・文化の拠点としてはもとより、観光の拠点としても重要な役割を担ってきた。ただ、道の駅「しちのへ」として物産館の利用者が増加する中、美術館の入館者数はその恩恵を受けることなく、全国的にも難しいといわれる美術館運営の課題が当館においても浮き彫りとなっている。しかしながら、町内外からの集客にも一躍を担う特別展や体験講座など、時代のニーズを鑑みつつ、広い視野にたった発想で取り組むことのできる、民間の手法を用いた指定管理制度は有効と思われる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	経費削減と民間の機動力や企画力によるサービスの向上を目的に導入した指定管理制度であり、今後は、指定管理業務の成果と課題について適正な方法で評価できるように、指定管理者の役割を明確にするとともに、モニタリングや外部委員を加えた評価委員等により、透明で公平な評価の仕組みづくりを進める必要がある。また、指定管理者には、豊かな感性をもって、新しい価値の創造を担う芸術文化拠点としての美術館運営に一層の自助努力が期待される。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	文化芸術鑑賞事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	620	176	1,086	
	財源内訳	国・県支出金			1,086
		その他			
		町債			
一般財源		620	176		

事業概要	□ 目的	子どもたちが個性豊かで魅力ある地域社会において潤いのある豊かな生活を営むことができるよう、文化・芸術、異文化を体験することで文化・芸術、異文化に興味を持つきっかけをつくり、更には子ども自身の創造的な能力を高めることを目的とする。	□ 内容	文化・芸術に寄与する事業の開催または芸術鑑賞・体験 新体操1回、ヒップホップ1回、バレエ2回、バイオリン・ダンス・ピアノによる公演1回、絵画2回、茶道10回、日舞21回、人形劇2回、森のコンサート1回、マーチング体験2回・・・計43回、参加者2,074名

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	鑑賞人数	1,025人	463人	2,074人

事業評価	評価項目				
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A	
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%) 低い	C (25%)	A	
評価の説明	普段触れる機会が少ない様々な芸術や文化を間近で触れることができ、非常に有意義な事業になっている。当事業をきっかけに芸術関係の習い事を始めたケースもあり、効果は上がっていると考えられる。芸術・文化というジャンルは、普及を目的に講師料を高く請求しない場合も多々あり、効率性は非常によいと考えられる。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	当町には子ども達が行くことができる芸術・文化の教室は無く、また舞台や音楽を鑑賞するためのホールも無いため、本物の芸術に触れようとする場合は他自治体へ赴くしかない。 一方、文科省の実施の「子どもの学習費調査」によれば、人口5万人未満の自治体における芸術文化活動への支出状況(幼稚園児)において、平成20年に平均年間42,000円だった費用が平成24年には54,000円に増加しており、芸術・文化に対する保護者の需要が増加していることが考えられ、事業の継続は必須であると思われる。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	3(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	オータムフェスタ(文化部門)開催事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	決算額(千円)		1,081	910
財源内訳	国・県支出金			
	その他	1,081	910	800
	町債			
	一般財源			600

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町経済団体並びに文化団体等が一丸となり、まつりイベントを開催することで、地域産業及び文化等の振興発展に寄与する。生涯学習課は文化部門の事務局を担当している。	<input type="checkbox"/> 内容	舞台部門と展示部門を七戸町中央公園屋内スポーツセンターで開催。文化団体、学習サークル、一般作品、保育園、その他各種団体の作品の展示、舞台上で学習成果発表を実施している。また、平成27年度に限っては、「合併10周年記念事業」として、七戸町をイメージした吹奏楽曲「Azarea Town」を当町出身の作曲家へ依頼し、町内各吹奏楽団体が一同に会しステージにて披露した。 ○文化イベント 600千円 ○10周年記念事業 800千円
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
参加団体数		47	34	54

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B(イ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	展示部門は、町内の文化サークル等の団体が活動の成果を披露することができる唯一の場であり、町の文化振興のために必要な事業である。今年度は発表の場としての位置づけを明確にするため謝礼金を廃止したが、参加者の理解を得て多くの団体の出演・出展があった。謝礼金を廃止した代わりに記念品を贈呈したが、記念品についてはもっと簡素な物にする等でコスト削減はまだ可能と考えられる。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町の文化振興の場が必要とされている事は参加者アンケートからも明確であり、今年度謝礼金が無くても出演・出展する団体が多くあった事から、今後も継続していくべき事業である。 ただ、今年度初めて文化協会との共催とし、文化協会会長を会議や打合せの参集範囲に含めて実施したが、実際は協会の仕事は受付業務を担ってもらう等に止まったため、運営について今後も協会と協議していく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(1)②	担当課	生涯学習課	担当者	田栗昌弘
事業名	町民スポーツ交流会				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	700	478	438	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	200	700	478		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	広く町民にスポーツ・レクリエーション活動の場を提供することにより、生涯を通じたスポーツ活動への参加意欲を喚起するとともに、生涯を通じたスポーツ活動への実施を図ることにより健康保持、体力増進及び相互の交流を図ること。	交流会 25年度より七戸ギネスチャレンジへ変更し誰でも気軽に参加出来る7種目にし七戸独自の記録として毎年新記録を目指し参加を募る。 対象 町民(個人、町内会、分館単位) ※幼児から高齢者まで

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)	7種目	7種目	7種目
	七戸ギネスチャレンジ	15団体 282名	10団体 252名	10団体 234名

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	参加者(チーム)にバラつきがあるため、誰でも参加できる競技を取り入れた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	地域間の交流のため、広く町民が参加できるよう工夫が必要。 種目の選定と参加対象者、周知方法など検討する必要がある。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	小林義博
事業名	体育協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	3,827	4,701	4,239	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	2,378	2,961	2,569
		町 債			
	一般財源	1,445	1,740	1,670	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	体協所属団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。 各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯にわたるスポーツライフの実現を趣旨とする。	○加盟団体主催ナイターリーグ大会 (フットサル・バドミントン・バスケット・ハレーボール) ○加盟団体主催大会 (朝野球、壮年スポーツ大会、マラソン大会、ソフトテニス大会、剣道大会、ゲートボール大会、ボウリング大会、グラウンドゴルフ大会、町民登山) ○加盟団体主催教室 (水泳教室、ジュニアベースボールスクール)

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	教室・大会数	3教室・13大会	2教室等・14大会	2教室等・15大会
	参加者数(人)	2,772	2,490	2,574

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	体協所属団体ほぼすべてが、目的に沿った事業を展開できている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各所属団体の事業の継続と更なる充実を目指し、関係団体に協力する。また、課題等を充分聴取する。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	坂本雄大
事業名	七戸町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球ソフトボール大会				

事業費	年度	平成25年	平成25年度	平成27年	
	決算額(千円)	217	235	221	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他	153	168	155
		町債			
一般財源	64	67	66		

事業概要	□ 目的	七戸町及び東北町管内の小・中学校の野球・ソフトボールの技術の向上と児童生徒の交流を図り相互の連帯意識を高めるとともに、心身の健全育成を図ることを目的として開催するものである。	□ 内容	七戸町・東北町(旧中部上北4ヶ町村)のスポーツ少年団・中学校対抗の野球・ソフトボール大会。中部上北防犯野球・ソフトボール大会の流れであり、夏休み中に開催している。
------	------	---	------	---

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	参加チーム数・小野球	6 チーム	5 チーム	5 チーム
	参加チーム数・小ソフト	4 チーム	4 チーム	4 チーム
	参加チーム数・中野球	5 校	5 校	3 校
参加チーム数・中ソフト	3 校	3 校	3 校	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			B(ウ)
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			B
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			B
評価の説明	野球・ソフト以外にも多数の競技種目があり、左記種目に限定するのは公平さに欠ける。また、各種目とも多数の大会があり、町が主催する必要性も薄れている。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	関係団体及び他の町村とも協議した結果、参加チームの減少、審判の確保が困難、日程調整が困難、町が行う必要性の低下などから28年度をもって廃止とする。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	坂本雄大
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	860	882	854	
	財源内訳	国・県支出金	60	60	60
		その他			
		町 債			
一般財源		800	822	794	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の8区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。町の部5位、総合11位。 選手 ・一般男子 7人(一般 5人 大学生 1人 高校生1名) ・中学生男子 4人 ・女子4人(大学生 2人 中学生 2人)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)	成績	町の部 5位 総合 12位	町の部 5位 総合 12位

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	青森県のスポーツイベントで、町民が一体感を強めることができ、毎年入賞を目指して活動しており、県内トップクラスの選手育成も成されている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	中学生区間を走る選手の確保が課題であるため、町内中学校と協力して選手の発掘をしていく。 大学生・一般の選手の情報を早い段階で把握するようにする。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	坂本雄大
事業名	スポーツ少年団支援補助事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	701	701	701	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	701	701	701	

事業概要	□ 目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年の健全な育成に資する。また、町民の健康維持・増進および体力・競技力の向上、更には次世代を担う子供たちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体への促進を図るためのものである。	□ 内容	七戸町体育協会よりスポーツ少年団へ補助 ①加盟単位団(18団)への活動費補助 ②スポーツ少年団・指導者内の交流会 ③募金等の奉仕活動 ④指導者育成のための補助 ⑤冬季練習場所への移動・活発な活動のための補助
------	------	--	------	--

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	単位団・登録者数	19団 371名	18団 332名	18団 341名

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	地域主体のスポーツ少年団が、活動する上での支援は必要であり、評価できる。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	スポーツ少年団補助が、町補助と体育協会補助の2通りあったため、平成28年度より町補助へ統合する。(廃止)
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑥	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	小林義博
事業名	体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	792	783	900	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	792	783	900		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	体育協会及び所属団体が町代表として地区大会並びに上位大会出場の機会を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	上北郡総合体育大会・北奥羽総合体育大会・青森県民体育大会への参加に伴う費用の一部を補助する。 全国・東北大会出場に伴う経費の一部補助及び選手強化のため施設使用料の一部を補助する。

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	上北郡総合体育大会参加者数	15競技187名出場(3競技優勝/総合第4位)	15競技181名出場(2競技優勝/総合第4位)	14競技157名出場(3競技優勝/総合第3位)
	北奥羽総合体育大会参加者数	3競技26名出場	4競技37名出場	5競技52名出場
	青森県民体育大会参加者数	9競技102名出場/町の部13位	10競技100名出場/町の部9位	9競技118名出場/町の部8位
全国東北大会出場数	団体(ゲートボール)	団体(ゲートボール・ハンドボール・ボウリング・グランドゴルフ)	団体(野球、サッカー、ゲートボール)	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	町代表として出場する大会への派遣費であり、選手強化に伴う成果及び競技人口の維持増加など評価できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町代表として出場する大会への派遣費であり、より多く助成できるようにする必要がある。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑦	担当課	生涯学習課	担当者	田栗昌弘
事業名	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(県大会・東北大会・全国大会)				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	1,525	1,342	2,197	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	1,800	1,525	1,342		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	上位大会出場機会を支援することで、競技力の向上・競技スポーツの振興、生涯スポーツ振興を目的とする。	町内スポーツ少年団及び体協所属団体等が、予選を経て東北・全国大会に出場する場合の対象経費(交通費宿泊費等)を補助する。 (スポ少:対象経費1/1 体協加盟団体及び一般関係:対象経費1/2)

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	スポーツ少年団	26 件 175 名	26 件 127 名	30 件 9 団体 (142名)
	一般	3 件 23 名	4 件 20 名	7 件 6 団体 (44名)
		1,267,000 円	1,110,000 円	1,839,000 円
		258,000 円	232,000 円	358,000 円

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	平成25年度より少年団の補助率を1/1とした。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少年団の補助対象となる大会の見直しが必要である。 県大会については、補助金の見直しを図りH28より補助を廃止。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	天間 正子
事業名	スポーツ顕賞				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	381	455	692	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	381	455	692		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	スポーツ活動において町民の健康福祉の増進に功労があったもの又は広く町民の模範となるべきものを顕賞する。	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。 各種団体、県内外の高校から推薦してもらい、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、受賞者を決定する。

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	スポーツ功労賞受賞者数	個人3名	個人2名	該当者なし
	スポーツ賞受賞者数	個人1名	個人5名	個人3名
	スポーツ優秀賞受賞者数	個人10名	個人10名・団体3(19名)	個人15名・団体3(44名)
生涯スポーツ奨励賞受賞者数	個人7名・団体1(6名)	個人1名・団体1(4名)	個人7名・団体1(17名)	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体の顕賞で、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっていくものであるため、継続が必要である。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<ul style="list-style-type: none"> ・功労賞については、具体的な基準は難しいものがあるので、審議会及び担当者が統一見解を持っていなければならない。 ・他県へ進学した町内出身の高校生等、顕賞にもれないよう努める。 ・現状のまま継続する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	大池謙嗣
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	各種大会及びイベント事業等の開催誘致。

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	大規模な大会・イベント集客数	七体/6月:商業祭 千人	七体/6月:商業祭 千人	七体/6月:商業祭 千人
	"	七体/10月そば博 6千人	七体/10月そば博 6千人	七体/10月そば博 6千人
	"	七体/4月:桜花柔道大会 千人	七体/4月:桜花柔道大会 千人	七体/4月:桜花柔道大会 千人
"	七体/8月:防犯剣道大会 千人	七体/8月:防犯剣道大会 千人	七体/7月:防犯剣道大会 千人	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	大きな大会・イベントを誘致することで、施設の利用促進に繋がり町の大きなPRにもなる。また、県・東北大会など、レベルの高い試合に接する機会を提供できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸体育館は耐震判定指標を満足していないため、県大会など規模の大きな大会の開催について、利用方法を検討する。 各施設を計画的に整備、拡充し、大会や合宿の誘致に努めると共に、町民の利用促進を図る。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館講座開設事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	373	288	195	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	373	288	195		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	町民の生涯学習として、知識の向上と教養を高めることにより、心豊かな生活を送るための一助となることを目的とする。	平成27年度の講座内容一覧 ①美BODY教室②アロマ活用法講座③よもぎだんご作り教室④筋膜リリース教室⑤そば打ち体験教室⑥筋膜リリース教室⑦ズンパダンスとお手軽ストレッチ教室

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	講座数(講座)	12	7	7
	講座申込者数(人)	333	184	203
	講座延べ実施数(人)	1,251	477	570

事業評価	評価項目			評価	
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	昨年同様、7つの講座を実施し、その中で硬くなった筋膜をほぐす方法の講座が人気があった。参加者も20代から70代と幅広く、講座参加者の中からはサークルを作り継続したいという声もあった。今後は、サークルの立ち上げの支援をしたいと思っている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。 また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言・支援に努めていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	寿大学開設事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	100	96	100	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	100	96	100		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	高齢者が「技術・技芸」「スポーツ」「健康」「一般教養」の学習を図り、長年にわたって培った豊富な経験、知識、技術をさらに高め、健やかで生きがいのある人生を送り、社会活動に参加する学習機会を提供することを目的とする。	6月:開講式(歴史講話) 7月:手工芸教室(ふくろうのリース作り) 8月:町外研修(南部町 桃狩り) 9月:手工芸教室(野菜作り) 10月:健康・音楽教室 11月:体験教室(七宝焼き) 12月:料理教室(さばのピリ辛そば風ほか) 1月:軽スポーツ教室(グラウンドゴルフ) 2月:閉講式(みよこ太鼓体験教室)

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	開催数	9回	9回	9回
	参加者数(人)	358人	261人	271人

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	講師を招いての「七宝焼き」が大変好評だった。初めての体験となった「和太鼓」では、太鼓用の楽譜に集中し、意欲的に取り組んでいた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	関係機関や関係課との連携を図り、学習内容をさらに充実させ、コスト削減に努める。また、幅広い年代(60代~80代)の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、町民の意見や要望を取り入れ、施設、設備環境に配慮し、学習機会を提供する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑥	担当課	南公民館	担当者	小原 ふみ子
事業名	「柏葉大学」開設事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	62	102	102	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		62	102	102	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	高齢者の生き甲斐づくりの為、健康・教養・趣味を軸とした各講座を開催し、社会教育活動に参加する機会を作る。	<input type="checkbox"/> 内容	生涯学習のさらなる向上、充実を図る為、次のような講座を実施した。 講座 ①開講式・講演会②清掃奉仕活動③パークゴルフ教室④健康体操教室⑤町外施設見学⑥七宝焼き教室⑦ヨガ体操教室⑧思い出の歌教室⑨オリジナルタペストリー教室⑩グランドゴルフ教室⑪開講式・講演会 全11講座
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	講座実施数	10回	14回	11回
	参加者人数	196人	277人(延人数329人)	288名(延人数281人)

事業評価	評 価 項 目			評 価	
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A		
評価の説明	この事業は、60歳以上が対象の事業であることから、実施内容や実施方法を、今後、住民のニーズに応えられるよう更なる創意工夫し、継続して、高齢化社会の中、ますます内容の充実を図らなければならない必要がある。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他(募集方法の見直しが必要)	地域のニーズに合った講座を企画立案し、より一層高齢者の生き甲斐・社会教育活動に参加する場の提供に役立つよう努力していく。また、男性の参加者が少ないので、実施内容など、適切かつ魅力ある設定が必要である。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	6(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館図書室事業				

事業費	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	650	662	896	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	650	662	896		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	図書、記録その他図書室資料を整理、保存して町民の要求に応え、公平な資料の提供によって教養、調査に資する。	<input type="checkbox"/> 内容	図書室資料の収集、整備、相互貸借、町民サービス、巡回貸出の実施や図書等の購入を行う。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	年間開館日数	327日	330日	331日
	図書購入費	500千円	500千円	747千円
	年間貸出冊数	4,769冊	5,735冊	6,778冊
年間入場者数	3,959人	3,612人	3,963人	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	図書室の利用者のニーズに対応した資料提供ができるように、蔵書のバランスを考慮し、一般図書・児童図書を収集整備した。また、貸出・予約・リクエストサービス等の充実に努め、図書室サービスの周知を図るため、「図書室だより」を発行している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	図書購入費を有効に活用し、町民のニーズに対応しながら継続して収集整備をしていく必要がある。また、館内を利用しやすいように環境整備を行うとともに、町民に広報や公民館だより、図書室だよりを活用し、図書室をPRする必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	6 (1) ③	担当課	中央図書館	担当者	十枝内 知子
事業名	図書館協議会の運営				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	115	99	99	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源		115	99	99	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	図書館法に基づく図書館協議会の招集・運営。	<input type="checkbox"/> 内容	委員は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館サービスについて館長に対し意見を述べる。図書館は、委員の意見をもとに業務の改善に取り組む。

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	委員定数(人)	10	10	10
	開催回数(回)	5	2	2

		評 価 項 目	評 価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
	評価の説明	委員から出された意見は可能な限りその都度図書館運営に反映させ、事業の改善を行っている。平成27年度も、一部事業の運営にも参加してもらい、事業充実への協力もあった。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続して取り組んでいく。
----------	--	-----------------

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	十枝内 知子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	決算額(千円)	107	113	103	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町 債			
一般財源	107	113	103		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②6ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園対象:家庭での読み聞かせ用絵本) ⑤読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	項目(単位)			
	おはなし会実績(回/人)	3/110	3/100	3/110
	ブックスタート実績(人)	83	85	72
	学校配本実績(人/冊)	3,476/7,355	2,910/6,426	2,786/5,878
図書セット巡回配本(ヶ所)	幼・保 7/中 1	幼・保 4	幼・保 4	

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

